

本日は、徳野会長の特別メッセージを視聴しました。以下に全文を掲載いたします。

<会長メッセージ>

「真の父母様の心情、事情、願いを正しく深く理解して前進しよう！」

先の「2015 秋季清平特別大役事（以下、大役事）」の前後に、真のお母様と親しく会話させていただく機会がありました。その内容と、最近来日されたときの文妍様様のメッセージの内容を併せ、4つのポイントでお伝えします。

[1]父母様の心情、事情、願いを証される妍様様

第1のポイントとして、最も重要なテーマは、真の父母様のご心情、ご事情、その願いをいかに正しく、また深く理解するかということです。大役事の前後にお母様とお会いした際、私は、妍様様のご来日の恩恵についてお母様に、次のように報告させていただきました。「妍様様が、お母様のおそばで侍りながら感じておられる、お母様のご心情、ご事情、その願いについて、私たち日本の食口たちに、正しく、深く理解できるように話してくださり、大きな恩恵に与っています」と申し上げました。するとお母様は、「真の家庭の長男の嫁というもの、誰でも務まるものではありません」とおっしゃりながら、お母様の証し人として妍様様が見事に使命を果たされていることに、とてもうれしそうでした。

さらに私は、妍様様のメッセージの内容についてご報告しました。「妍様様は、『お母様はこのようなご心情やご事情を抱えながらも前進していらっしゃると悟るのですが、再びお母様に接してみると、ご心情の次元が遥かに高いことを知ります。お母様に対する自分の見方がまだまだ浅はかだったと反省することが多いのです』と話して下さいます」とお母様は、「真の母の心情世界は、海のように深く、無限、無窮です」とおっしゃいました。

[2]心情の十字架を背負いつつも前進されるお母様

第2のポイントです。今春、欧州宣教50周年記念式典のためにお母様は、欧州に行かれたあと、米国のイースト・ガーデンを經由されて、ラスベガスで「国際平和教育院（ピースパレス）奉献式」（陽暦5/30）を主宰されました。途中で立ち寄られたイースト・ガーデンは、真の子女様方が少年少女時代を過ごされ、孝進様をはじめとする子女様方の館がある所です。そこでお母様は、「真のお父様の悲しい思いが伝わってきました。お父様が悲しんでいらっしゃる」とおっしゃいました。

そして、翌朝の訓読会では、「夕べは泣きすぎてしまいました」と、正直にご心情を吐露されたそうです。しかしお母様は、「泣いてばかりはいられません。私たちには中断なき前進あるのみです」とおっしゃり、すぐに、いつもの天の威厳に満ちた気丈なお姿に戻られました。私は改めて、心情の十字架を背負いながらも、「真のお父様の悲願を成し遂げてさしあげたい」という一念で、未来に向かう勝利の確信をもって私たちを引っ張ってくださるお

母様であることを知らされた思いでした。

[3]お父様の願いのみに生きておられるお母様

今、分派問題がありますが、残念ながら彼らは「真のお父様と真のお母様は一体ではない」などと心ない主張をしています。しかし、考えてみてください。お父様との御聖婚以来、52年間、お父様と寝食を共にするだけでなく、喜怒哀楽を共にし、侍ってこられた方がお母様です。どんな偉大なお弟子さんでも、たとえいかなる真の子女様でも、それほど長い期間、お父様に直接侍った方はいらっしゃいません。お父様のご心情とご事情、その願いを誰よりもご存じの方がお母様です。夫婦としての心情の結びつきの強さは量り知れません。今は霊界と地上界の両世界にまたがっていますが、お母様は常にお父様を意識していらっしゃいます。

妍娥様は次のように語られました。妍娥様は孝進様と9年間、人生を共にし、お子様にも恵まれました。その間、孝進様はメディアや音楽を通して天のみ旨に貢献したいとの一念で、お体を壊してもなお投入し、必死で1万曲を作られたのです。そのお姿をご覧になってきた妍娥様は、その孝進様の悲願を未来において何としても実現してさしあげたいとお思いになるそうです。

そして妍娥様は、「妻として孝進様に9年間だけ侍った自分でさえ、孝進様の悲願を成し遂げたいと思うのに、52年間、お父様に侍ってこられたお母様が、お父様の悲願を成し遂げてさしあげたいというお気持ちにならないはずがありません」とおっしゃいます。

私たちは、命を懸けてみ旨の実現のために今、正に孤軍奮闘しておられるお母様を、正しく、深く理解しなければなりません。それがお母様と一体となる上で最も重要なポイントだと思います。

[4]お母様を支えることが最高の恩返し・孝の道

第4のポイントです。去る聖和3周年記念式典で登壇された真のお母様は、み言を語られる前に、「きょうは特に真のお父様が慕わしいです。皆さん、お父様のことを慕いながら、全員で『サランへ』を歌いましょう」とおっしゃり、涙ぐみながら私たちを先導してくださいました。お母様がどれほどお父様を慕い、愛しておられるかをうかがい知ることができません。

そして、お母様は次のように宣言されました。「きょう集まった皆さんは、お父様にどのようなこととお話ししたいですか。私はこのように話したいです。『お父様、これ以降は心配なさらないでください。私たちが必ずや責任完遂いたします。ですからお父様は、永遠なる本郷苑において、これまで孤独であった神様、天の父母様を慰労され、頌栄の対象として自由の身となられることを懇求いたします』」

今、多くの十字架を背負いつつも、地上でみ旨の全責任を担われるお母様です。私たちに対してお母様は、「皆さんの責任は70億の人類に真の父母を伝えることです。人類の中で真の父母を知らない人がいてはなりません」とし、「神氏族メシヤの使命を完遂して救国救世の基盤をつくることを願います」と宣言なさいました。私たちにとって、お母様をお支え

することが、お父様への最高のご恩返しであると確信します。必ずや神氏族メシヤを勝利し、その基台の上で救国救世の基盤を成し遂げてまいりましょう。